

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170101036		
法人名	有限会社 介援隊		
事業所名	グループホーム 愛らんど		
所在地	佐賀県佐賀市蓮池町大字小松843番地2 (電話)0952-97-1318		
自己評価作成日	平成22年7月26日	評価結果市町村受理日	平成22年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人佐賀県社会福祉会
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成 22年7月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の日々の健康管理に職員中准看護師3名中心に、朝、昼、夕とバイタルチェックをし、週2回訪問看護ステーションが火、金と訪問し約2時間健康管理を行っている。異変を察知した時は、入居者の訪問医・主治医に連絡を取っている。また、訪問看護ステーションとは24時間オンコール体制を取れる契約をしている。福祉空間設備としてスプリンクラー、火災通報装置の設置、冬は廊下、居室、玄関、トイレ、脱衣室、洗濯室、事務所、託児室、リビング、台所まで床暖房システムを設置、南側にウッドデッキを設置し布団、ベッドなどを天日干しできるようにしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今回、外部評価をさせて頂いたホームは佐賀市の東にあり蓮池公園の東北側に位置してとても静かな中であつた。殆ど自動車も通らず聞こえてくるのは田んぼにいる蛙の声や風の通る音であつた。蓮池公園に隣接してホームとしての住環境も良かったが、特にすばらしかったのが、真夏の調査で気温も相当高かったはずなのに全然暑く感じなかった。その理由はホームの横を流れる佐賀江川の影響だろう。ホームの窓を全開にしたら風が通り、川で冷やされた風がとても心地良かった。入居者も職員も殆どの方が地元出身で和気あいあいとした雰囲気の中で生活されており、また来訪者も多いことはこのホームの特徴の一つであろう。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とのかかわりを大切に和気あいあいと暮らせるグループホームを目指そう」を理念に、老人会、ものづくり教室、町民体育大会の参加、地域周辺の道路の掃除もおこなっており地域住民にグループホームの理解も得ている。	理念は職員全員で共通理解されており、ホームの玄関にも掲げられている。その理念は地域住民の方にも浸透しており、ホームが地域住民の集合場所としての機能も果たしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者が、この地区で生まれ育ち自治会員であり、総会、おこもりさん、月1回の掃除等、地区の行事には全て参加している。	ホームは地域住民の方にも開放されており、ホームにはテラスがあるがそこで入居者の方と地域の方がコーヒーを飲んだりもしている。地域の自治会長宅もお隣さんでよく来所されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の道路掃除は、毎日利用者が積極的に行っており、運営推進会議には自治会長にも参加してもらい利用者の日常生活の様子も見てもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までは行事報告が主であったが前回は愛らんの運営方針・状況報告をさせて頂きました。次回には、介護サービスのテーマを決め皆さんの意見も聞いていきたいと考えております。	自治会長は必ず出席しており、包括支援センターの職員や家族も全員とまではいかないが、出席して頂いている。最近の会議では話す内容がたくさんあり話しきれない程時間が足りないと感じている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の保護課、地域包括支援センター、広域連合等に相談しサービスの向上に努めている。	市の保護課または医療係とも連携している。広域連合の指導係とも密に連絡を取り合い、不明な点は直ちに伺って解決している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	命に危険を感じた場合は、家族等からの身体拘束の同意書ももらいますが、それ以外は身体拘束はしていない。	現在の入居者は車椅子はもとより杖歩行の方もいない。身体拘束する必要性のある方はいない。声かけについても職員同士がお互いに声を掛け合い、日々の事例の中で悪い所は修正をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が実践リーダー研修で学んだことを勉強会、職員会議等でどのような事が虐待に値するのか説明し職員に指導し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者1名は、佐賀家庭裁判所で成年後見制度を受理され登記済みである。市保護課とも密に連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書・重要事項説明書、個人情報を取り扱う場合の同意書・医療連携体制加算に対する同意書・利用者の重度化した場合における対応に係る指針・看取りの指針・終末期(ターミナル)生活のための同意書について説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の交流の機会をできるだけ設け、毎月家族等に管理者・職員が利用者の様子を手紙に書いている。意見・要望・苦情等を書けるようにして苦情箱を玄関に設置している。	苦情箱に言葉使いの意見等が投函されていた時は、管理者からも注意している。さらに、会議や定期の勉強会等では、家族などの意見・要望、苦情などを取り上げ、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月5日勉強会・25日職員会議を開き、また職員の1人を運営責任者としてホーム長を置いている。	ホームの組織上「ホーム長」を今回設置した。直接管理者やオーナーに言い難いことでも「ホーム長」を通して何でも言い合える体制を作った。日々の職員の「愚痴聞き」的な意味合いもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	准看護師・特養経験者・家政婦経験者、異業種から年齢、環境の違ったスタッフがおたり、勤務に関し希望休みを取り入れ、ゆったりと仕事に就けるよう、またそれぞれの個性が活かされるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等について、できる限り参加してもらえるように日勤扱いにして費用の全額負担をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の全国と佐賀県支部の2ヶ所に加入しネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームに来てもらい必要としている支援について本人から聴けるよう家族、職員を含め話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、職員、環境、雰囲気馴染んでもらえるか家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をしっかり聴きだせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、職員が一体となって必要としている支援を見極められるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、入居者が安心して職員とともに支えあえる関係づくりに努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流を密にして信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも、面会に来てもらえる環境づくりに努めている。	入居者も職員も殆どは地元の方なのでよく来てもらっている。また毎月の費用支払い等は振込みや振り替えにしないで持参して頂いている。少しでも面会の機会を増やしたいとの意向である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく日常生活が出来る環境づくりに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご縁があり、ホームと関わっていても、入院、死亡はつきもので家族にとっては思い出の場所であり、いつまでも、ご縁を大切にしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時本人や家族から希望される暮らしを聞き取っているが、毎日本人の様子を伺いながら支援している。	終末期の体制については家族・医師とよく話し合いをしている。ホームでは今までにお二人の見取りを経験している。また日々の生活では相手の気持ちを汲み取りながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等から出来るだけ多くの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の行動、バイタルチェックを重視し、総合的に把握出来る様、申し送り等で確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人ひとりスタッフを担当し、本人、家族等の意見を取り入れた介護計画作成に努力している。	ケアプランについてはよくまとめられており、また職員一人一人の確認印があり、担当制の実践がなされている。計画に対し目標が達成されたか会議の席で話し合いがなされ意見が反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の記録に本人の行動、言葉も書き入れ、職員の言葉かけも記入することにより、本人の様子がよく理解でき介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、病院、自宅への帰省、外出等における支援を行っている。他、移送サービス業者にも参入して頂き、利用者のニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の訪問等、ボランティアの受け入れも行き、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医と地域の医院との契約により、定期的な医療が受けられている。	入居者は主治医を自由に選べ、入居者にとっては安心して生活できる体制が整っている。また本人の状態に応じた医療に変更できる様に配慮されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション陽だまりと委託契約をしており、週2回2時間、健康管理を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問医、地域の医院が医療連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針、看取りの指針については、契約時に書類を作成し共有している。 訪問医、地域の医院、訪問看護ステーションとにより今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	感染症や食中毒等の情報には敏感に対応している。看護師が厚く配置されており、異常があった場合にはすぐ駆けつけてもらっている。入居者があまり重度化したことがなく、長期入院の方もいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の勉強会、職員会議等で初期対応の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練等、災害時における非難誘導実施、地域の人々による協力を自治会長を通じお願いしている。	近所に地元の消防団がおり連携している。消防署とも離れておらず安心である。消防訓練もされており、記録に残っている。	消防訓練はなされているが、夜間を想定した訓練をまだ実施していないとの事だった。今後は夜間を想定した訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のため個人情報の取り扱いについては、その都度承諾書を作成している。	排泄介助の時等、プライバシーに配慮して、二人体制で行うことにより、円滑に介助ができる体制をなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族的、家族のような関係を大切にし、自分の思ったこと等、気兼ねなく言える環境を大切にしている。 言葉かけを大切にし、尊厳ある生活の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで自由に暮らしてもらえることを優先し、希望にあった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が望む服装が着れるよう清潔衛生面に配慮し整理整頓をし理容美容は本人の望むようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季の地産地消の食材を使い、和気あいあいと食事の準備から片付けまで残存能力に合わせて一緒に楽しくしている。 嗜好品などは、健康管理を重視した嗜好を考え提供している。	食事風景はとてもアットホームな感じで、食事の前には徹底して手洗いの励行がなされており、健康管理と予防に配慮がなされている。希望があれば職員と一緒に巻き寿司を作る事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に記入し、一人ひとりに応じた状態や力を管理し栄養バランスが取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食後の歯磨き、うがい、入れ歯の手入れ等の支援を行っている。 指導が必要と思われる方には指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方が自立されており、バイタル表に、排泄の記録を記入し、排泄のパターンを支援している。	各入居者の排泄状況を把握しており、入居者のサインを事前に察知して介助を行っている。トイレもよく掃除がなされており清潔にされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、果物、繊維質の多い野菜等の摂取に取り組んでいる。 病的な排便リズムでコントロールの必要な方には主治医の指導の元、薬でのコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の決め事はなく、毎日入る方、一日おきに入る方、入浴時間は自由で感染予防に配慮し、一人ひとりお湯を入れ替えている。	感染予防の観点から一人ひとりに対し、お湯を交換している。経費としては増加するが入居者の事を優先した援助となっている。又職員にとっても広い浴室となっており介助し易い環境になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は布団を天日干しにし、毎週木曜には枕カバー、シーツ、布団カバーの交換をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化の確認を常に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の下ごしらえ、台所の手伝い等が生きがいとして感じられる方には、生きがいを大切にしたい手伝いをスタッフと一緒にしている。 その方に合った支援を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年目標として、お誕生日には「本人の希望を叶える」事を目標として取り組みたい。 希望に応じた戸外に出れるよう支援している。	近くに神社があり、毎朝散歩に出かけられている。季節的にテラスで食事が出る時にはテラスで食事を取ることもある。希望があれば外出したり、出来る限り希望に答える様にしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金を持たない指導を受けており、希望する物は家族の承諾を得て買い物に行きます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等への手紙の宛名書きに投函、電話の取次ぎ等、自由に外部との連絡が取れるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を全室南側にとり、廊下・リビングに天窓を作り、廊下・トイレ・浴室・脱衣室を広くとり、天井も高く、威圧感を無くし、季節感を取り入れるようウッドデッキを南側に作りました。	掃除が行き届いている。朝2時間かけて職員が対応している。居室のダニ対策や衛生面に配慮し各居室のベランダに布団や毛布を干している。又週1回はシーツ交換を実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、利用者同士が過ごせる居場所を確保した。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、使い慣れた家具、茶碗、箸、仏壇等あれば持ってきて頂き、自由に住み易いようにして下さいとお願いしている。	各部屋に空気清浄機を設置してよい環境となっている。こまめに掃除されているので臭いが殆どない状態である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーにし、玄関は20cmの上がり框をつけ座って靴が履けるように配慮し、廊下の壁に床から75cmの位置に手すりを設け扉は全部引き戸にしました。3部屋ずつ3ブロックにし鍵型にし、トイレの誘導を壁に貼り一人でもトイレに行けるように配慮しました。		